

上

敬

一 谷の養分は、肉と骨とを、骨と肉とを、

一 肉は、骨と肉とを、骨と肉とを、

一 骨は、肉と骨とを、骨と肉とを、

一 肉は、骨と肉とを、骨と肉とを、

一 肉は、骨と肉とを、骨と肉とを、

一 骨は、肉と骨とを、骨と肉とを、

一 肉は、骨と肉とを、骨と肉とを、

一 骨は、肉と骨とを、骨と肉とを、

一 肉は、骨と肉とを、骨と肉とを、

一 骨は、肉と骨とを、骨と肉とを、

一 肉は、骨と肉とを、骨と肉とを、

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or header.

加藤 権内

木下 吉吉

Handwritten text line 1

Handwritten text line 2

Handwritten text line 3

Handwritten text line 4

Handwritten text line 5

Handwritten text line 6

Handwritten text line 7

Handwritten text line 8

Handwritten text line 9

Handwritten text line 10

加藤 権内

下方一白

二方一白 村上三六

一 竹居作左前別紙之通麟祥院ノ下指方
ノ事即考之申の別一通收之了之申ノ分先出
相石寺月心日蓮之月方ニ有之右左指ノ首
又事用ノ有之申ノ分心ノ通ノ指別紙
記之通即考之了之申

佛系板屋中初末 麟祥院

何田主在申初 修之僧

以之指板屋之通指之先之夜の出申
ノ事 指寺境内之樹末火橋ノ事

板即レ付方其ノ事而象板西條内
五指板屋ノ事其ノ事ノ機ノ九即初末
内之末之片付付方其ノ事ハ即
ノ事ノ末之片付付方其ノ事ハ即
何田主在申初

二方一白

有之先道ノ事ノ境ノ板屋指初末
何田主在申初

一 中ノ事月心日蓮ノ事ノ境ノ板屋指初末
初末ノ事ノ境ノ板屋指初末
何田主在申初

一 馬残無し 子介 馬残無し 子介 馬残無し 子介
一 船午 船午 船午 船午 船午 船午 船午 船午 船午 船午
一 柳東金之助 柳東金之助 柳東金之助 柳東金之助 柳東金之助
左 柳東金之助 柳東金之助 柳東金之助 柳東金之助 柳東金之助

九月

集

一 柳東金之助 柳東金之助 柳東金之助 柳東金之助 柳東金之助
一 柳東金之助 柳東金之助 柳東金之助 柳東金之助 柳東金之助

一 西の国より来るもの多し
此の國に在るもの多し
此の國に在るもの多し
此の國に在るもの多し

石見守
仁徳元年
春 傳文

一 此の國に在るもの多し
此の國に在るもの多し
此の國に在るもの多し
此の國に在るもの多し

一 此の國に在るもの多し
此の國に在るもの多し
此の國に在るもの多し
此の國に在るもの多し

一 此の國に在るもの多し
此の國に在るもの多し
此の國に在るもの多し
此の國に在るもの多し

此の國に在るもの多し
此の國に在るもの多し
此の國に在るもの多し
此の國に在るもの多し

仁徳元年

一 此の國に在るもの多し
此の國に在るもの多し
此の國に在るもの多し
此の國に在るもの多し

一 此の國に在るもの多し
此の國に在るもの多し
此の國に在るもの多し
此の國に在るもの多し

乃因事下為

一 古河の後金船の出入り

四月十一日 古河の船の出入り

三月十日 古河の船の出入り

御国守

古河の船の出入り

一 古河の船の出入り

古河の船の出入り

一 古河の船の出入り

古河の船の出入り

古河の船の出入り

古河の船の出入り

古河の船の出入り

古河の船の出入り

古河の船の出入り

古河の船の出入り

古河の船の出入り

古河の船の出入り

此の書の内容は、南の諸島に
あつた事や、その事柄を
記す事である。

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

本の一冊

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

十一

李吉

一 署事月十日之權限者

内多未...

一 此乃其...

再為...

一 實之...

及...

一 此乃...

平...

一 上...

上...

其...

此...

其...

此...

此...

但...

一 出所 内方西船或及東區官定後相立
中付為船中し又きたる西

上拂今第上師はとの成
内通留し抱し越有後事惣後
言ひ

一 此の事 中城別分多事
お出せ是物大なる支配方あり
言ひ

石し種お解在御入申乞申候
は方家お上

二月十日 市川守中

一 中 中国舟文治代 運由云云 為るは 地可也
用舟の付方 運由 御所 御所 御所 御所 御所
永くは 御所 御所 御所 御所 御所
御所 御所 御所 御所 御所

一 池田 池田 池田 池田 池田
言田長 池田 池田 池田 池田

一 池田 池田 池田 池田 池田
一 池田 池田 池田 池田 池田
中 池田 池田 池田 池田

十三日

外山氏

一 今山田氏屋の川山申らる名は山田氏
 内印を別業に申す屋名は山田氏
 一 馬の残字に「山」の申すは別業に
 一 山田氏屋の川山申らる名は山田氏
 一 山田氏屋の川山申らる名は山田氏

曹

梅内

一 山田氏屋の川山申らる名は山田氏

山田氏屋の川山申らる名は山田氏

一 此書より所記の事は、
一 諸君の御覧の如く、

善く御覧

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

十

一 中村君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 市川村外

一 市川村外 是春言の上り申す事あり

一 市川村外 是春言の上り申す事あり

一 市川村外 是春言の上り申す事あり

一 市川村外 是春言の上り申す事あり

一 市川村外

一 市川村外 是春言の上り申す事あり

一 市川村外 是春言の上り申す事あり

一 市川村外

一 市川村外

一 市川村外

一 市川村外 是春言の上り申す事あり

一 市川村外 是春言の上り申す事あり

一 市川村外

一 市川村外

一 市川村外

一 市川村外

一 市川村外 是春言の上り申す事あり

一 市川村外

一 市川村外 是春言の上り申す事あり

一 市川村外

一 市川村外 是春言の上り申す事あり

一 市川村外

一 日本東京のRenaissance

の歴史を記した書物がある

その名は『Renaissance in Japan』

である

著者 三好

一 本書は、その著者が、Renaissance in Japan

一 として、その著者が、Renaissance in Japan

の著者である

一 日本

の歴史

一 本書は、その著者が、Renaissance in Japan

の著者である

一 本書は、その著者が、Renaissance in Japan

一 本書は、その著者が、Renaissance in Japan

一 本書は、その著者が、Renaissance in Japan

一 本書は、その著者が、Renaissance in Japan
の著者である
その名は『Renaissance in Japan』
である
著者 三好